

フランチャイズチェンパッケージ変更は、成長への歴史的転換点

オートバックスグループでは、2024年度にFCパッケージの大幅な見直しを実施し、ビジネスモデルの根幹に関わる改革に踏み切りました。

本インタビューでは、FC加盟法人の代表取締役社長お二人にご登場いただき、改革の評価、直面した課題、そして今後の展望について率直に語っていただきました。

P07 オートバックスフランチャイズシステム



株式会社バッファロー
代表取締役社長
坂本 裕二



和希株式会社
代表取締役社長
山口 武

Q 今回のFCパッケージ変更をどのように評価されていますか？

坂本 今回のFCパッケージ変更は、本部が従来の卸売中心のビジネスモデルから脱却し、加盟店と一体となって売上向上に取り組む姿勢を明確に示した、非常に意義深い改革であると捉えています。これにより、本部とFC加盟店の双方が小売の売上拡大に向けて足並みを揃え、共に成長していくための土台が整ったと感じています。

この20年ほどの間に店舗の経営は様変わりしています。カー用品主体から、車検や板金、洗車やコーティングといった整備、そして事業領域を広げる中で、ロイヤリティ料率の見直しは、本部としての「生き残りをかけた挑戦」であると受け止めています。従来の1%から9%への変更は、単なる料率の調整ではなく、新たなサービス開発などオートバックス店舗の改革そのものであり、FC加盟店にとっても収益構造の見直しと成長の機会をもたらすものだと考えています。

山口 今回の改革は、長年の課題に本部が真正面から取り組んだ、まさに歴史的な転換点であり、ロイヤリティ構造の見直しに踏み込んだ堀井社長の決断を高く評価しています。改革には反対意見がつきものですが、スピード感をもって一斉に実行した点は非常に効果的だったと感じています。

我々FC加盟店は、この改革をチャンスと捉えており、商品の原価低減による粗利率の向上や本部との



目線を一致させることにより、売上拡大の可能性に期待しています。特に当社では昨年度、改革に合わせて積極的な設備投資や賃金の引上げ、販促手法の見直しなどを実施し、これら実行力ある対応が成果に結びつきました。

今回の改革は、FC加盟店と本部が共に成長するための新たな土台を築いたものであり、今後のさらなる発展に向けた好機であると確信しています。

Q 改革に伴う課題や今後改善すべき点がありますか？

坂本 整備や車検をはじめとするサービス事業の拡大は、さらなる成長に向けて不可欠だと考えています。サービス主体のビジネスモデルへと転換する中で、すべてのFC加盟店がサービスによる収益基盤をしっかりと構築する必要があります。

また、現状では、店舗ごとに設備やサービスメニューにばらつきがあり、これを早急に統一し、標準化することが重要です。どの店舗でも同じ品質のサービスが提供できる体制を整えることで、ブランド価値の向上につながると考えています。



山口 坂本社長がおっしゃるとおり、サービス領域の強化は今後の持続的な成長において非常に重要な取り組みです。そして、それを支える「人財」への投資も欠かせません。今後、教育や研修がFCパッケージに内包化されていく中で、より実践的かつ成果が可視化できる人材育成の仕組みが求められます。例えば、車検に関与することの出来る人員の数など、単なる受講者数ではなく、教育の成果を定量的に評価し、可視化できる仕組みの構築を期待しています。

さらに本部には、各法人の実態を丁寧に把握し、適正な人員配置や教育投資が行われているかを見極め、支援する体制の強化を期待しています。売上が落ちると、こうした投資が後回しになり、結果としてサービス品質の低下につながります。だからこそ、本部には現場の状況を的確に捉え、必要な支援を迅速に提供してもらいたいと考えています。

Q 今後の展望について教えてください。

坂本 今回のFCパッケージ変更は、単なる制度の見直しにとどまらず、グループ全体の価値観や方向性を再定義するものでした。本部とFC加盟店が同じ目線で事業を捉え、共に売上を伸ばすという新たな関係性が生まれたことは、非常に大きな前進です。

ただし、改革はまだ道半ばです。今後は、整備やサービス領域の強化、店舗の統一化、そして収益構造のさらなる見直しなど、取り組むべき課題や変わらなければいけないことが山積しています。一つ具体的な例として言うならば、本部が実施している販促活動です。チラシやダイレクトメールに掲載する商品やサービスの中身は、実は過去からほとんど変わっていません。本部も卸から小売へとビジネスモデルを変革したということは、こうした点についても小売の視点から早急な変革が必要ははずです。過去の時代からの脱却がまだまだできていないと感じています。我々も、改革の実行フェーズを担う覚悟を持って臨んでおり、本部には引き続き、強いリーダーシップを発揮していただきたいと考えています。

オートバックスグループが業界のリーダーとしてふさわしい存在となるためには、やるべきことはまだまだあります。今こそ本気で、共に前に進む時だと感じています。

山口 坂本社長より、今回の改革は本部としての「生き残りをかけた挑戦」だとありましたが、FC加盟店にとっても同じことだと捉えています。本部が大きな決断を下した今、我々も本気で変わらなければならない。もし、現状に甘んじているFC加盟店があるならば、今回の改革をきっかけに意識を変えるべきです。

この変革をチャンスと捉え、設備投資、人材育成、販促活動に積極的に取り組むことで、FC加盟店としての価値を高め、地域社会に貢献できる店舗づくりを進めていきたいと考えています。本部とFC加盟店が真の運命共同体として、互いに支え合いながら、より強いオートバックスグループを築いていく。そのために、私たちは現場からの声を堀井社長に届け続け、改革を共に進めていきたいと思っています。